

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

「エシカル(倫理的)消費」とは？

近年注目・広がりを見せる「エシカル消費」ですが、エシカル(ethical)とは「倫理的な」「道徳上」という意味を持つ形容詞です。言い換えると「良識的・公平的に考えるとこうである」と多くの人が考える「社会的な模範」のことです。

「エシカル消費」とは、より良い社会を作るための、人や社会・環境に配慮した消費行動のことです。地産地消で地域の活性化や雇用を促進したり、買いすぎないことで地球環境に配慮したりといった行動も、エシカル消費の一つです。

3つの配慮 消費者庁のホームページを見ると、エシカル消費の消費行動を以下の「3つの配慮」に分類して紹介しています。

人・社会への配慮	地域への配慮	環境への配慮
<p>商品・サービスの生産の裏側において、働き手の人権を尊重した雇用がなされているか、ハンディキャップを背負った人々への支援につながるかなど、さまざまな角度から「人」への配慮を考えてみましょう。</p>	<p>地産地消は地域を活性化し、配送にかかるエネルギーを削減します。また、被災地産品の購入などは、被災地の支援につながります。自分が選択する商品がどういった地域のどのような力になるのかを想像してみましょう。</p>	<p>過剰な生産活動が環境破壊を招き、生物多様性も失われはじめています。商品やサービスのライフサイクル(原料調達～製品製造、製品輸送、使用、廃棄までの一連の流れ)に目を向け、どのような環境への配慮がなされているかを確認しましょう。</p>



日本においては、エシカル消費はしばしば「思いやり消費」とも表現されることもあります。一人一人が、思いやりを持った消費行動を心掛けて、商品が届くまでの背景や廃棄された後の影響を考え、世界で起きているさまざまな深刻な問

題を「消費者として解決する」うえで自分が与え得る影響について考えていくこと、これがエシカル消費の第一歩です。消費と社会のつながりを「自分ごと」として捉えることが必要です。

エシカル消費を考える企業とDX推進

企業活動の中でエシカル消費を実践していくには、環境や人(社員も含む)への配慮した商品作りや行動として考えると、最近流行りの「DX推進」が大きく貢献できるのではないのでしょうか。

- ✔ 環境に配慮して無駄な資源を使わない
➡ 電力消費量の削減やエコカー活用など
- ✔ 障がい者雇用や自律支援を促進する
➡ 自動化やAI・装着型ロボットの活用など